

- 1 開催日時 令和5年2月22日（水）10:00～12:00
- 2 開催場所 府立西淀川支援学校 2階 図書室
- 3 出席者（委員） 山中委員、大槻委員、西野委員、畑森委員、上久保委員、小川委員
出席者（学校） 貴志校長、中尾事務長、藤原教頭、刈谷教頭、西田首席
傍聴者 曾利教諭
- 4 協議資料 ・「令和4年度学校経営計画及び学校評価」
・「令和5年度学校経営計画及び学校評価」

○議題

- ・「令和4年度 学校経営計画および学校評価」にかかる最終報告
- ・「令和5年度 学校経営計画および学校評価」について
- ・その他

○内容

1. 校長より

ご出席いただきましてありがとうございます。この3年間、新型コロナウイルス感染症に関する認識が変化しており、学校においても、集会や交流活動、卒業式や入学式など入場制限を設けない形になってきています。現在のトピックとして、文科省からマスクを外して式を行うよう通知が来ており、大阪府もそれに従うとのこと。また後日、保護者あてにプリント配布を行いますので、ご理解いただきたいと思います。マスクを外していくことは教育的意義のあることですが、しかし、マスクを外しての活動となると、不安に思う方もいらっしゃると思うので、それにつきましては最大限の配慮をしていきたいと思っています。今回は、「令和4年度 学校経営計画および学校評価」の報告と反省をさせていただきますので、ご意見をくださいますようよろしくお願いいたします。「令和5年度学校経営計画及び学校評価」につきましては、新たな3年間の目標を定めていきたいと思っています。

2. 「令和4年度 学校経営計画および学校評価」について（校長より）

- ①【新学習指導要領への移行を踏まえた肢体不自由教育の実践力向上のために、効果的な教育課程を編成して実施・評価・改善を図る。】
 - ・多くの教員が実践に取り入れた。おおむね達成している。
- ②【将来の自立と社会参加をめざし、児童・生徒の一人ひとりの実態を踏まえた教育活動を推進する。】
 - ・今年度、学校の教育活動全般をコロナ前に近づけることができた。ただし、文化祭において、保護者が他学年の発表も見ることができているか等、学校行事、HPの活用にまだまだ課題が残っている。

- ・ICTに関しては、教員の9割がタブレット端末を用いており、また本日、電子黒板が5台学校へ入ってきて、今後インターネットで繋ぐことで、現在テレビモニターにつないで活用しているのがほとんどであるところが改善される見通し。電子黒板の活用を進めていきたい。キャリア教育に関しては、コロナの影響で事業所見学ができづらい状況ではあったが、今年度の高等部3年生については順調に行き先が決まった。
 - ・西淀ギャラリーに関しては、内容を充実させることができた。
 - ・スポーツ交流に関しては、今年度よりスポーツフェスタに児童生徒が2名参加した。
- ③【子どもの障がいの状況に応じたより良い教育活動を実践するため、特別支援教育に関する高い専門性と授業力の向上をめざす。】
- ・自立活動研究会の研究協議会発表校として、今年の2月に成果を発表することができ、高い評価をいただいている。広島県立福山特別支援学校のチェックリストを活用し、課題設定を行い、授業研究に関しても、教員たちが意欲を見せている。研究支援部の体制により効果が出ていると考えている。
 - ・今年度より、指導教諭を配置し、教員の指導を行っている。
 - ・専門性の向上に関しては、教員アンケートの結果、まだ十分ではないとの意見が上がっているので、さらに継続させていきたい。
 - ・いじめに関しては、校内体制を確立して対応している。
- ④【共生社会の形成に向けて、障がい者理解並びに人権教育を充実させるとともに特別支援教育の地域のセンター校としての役割を強化する。】
- ・地域支援体制、大阪市小中学校への支援の体制づくりについて、大阪市は大阪府と比べて弱い部分があったが、今年度は本校が幹事校として大阪市の地域支援を引っ張っていく必要があり、昨年に比べても、大きく支援実績を伸ばすことができた。
- ⑤【学校・家庭・地域との連携と安全。】
- ・防災に関して、災害伝言ダイヤルの活用を行い、教員実働避難訓練を実施し、また外部から講師をお招きしてご指導をいただいた。本校の課題としては、逃げ遅れた子どもへの対応訓練が必要。危機管理意識を持ち、避難経路の確保など、施設面での改善も必要。
 - ・医療的ケアに関しては、小さなミスが複数起きてしまった。未然に防ぐための教員と看護師の連絡体制づくりが課題。
 - ・課題のある家庭への支援に関しては、組織的に関わる難しさがあったので、今後は指導教諭や部主事を中心として担任任せにしないような体制づくりが必要。
 - ・効率的な学校運営を目指してきたが、業務量が多いため、時間外勤務の比率が上がった。担任外での仕事の引継ぎに関しては、引継ぎマニュアルが完備されつつある。

【委員より】

- ・防災の観点から、ガラス張りの窓をアクリル板にしたいとあるが、確か以前に紫外線防止フィルムを貼っていると思うが。
(校長より) 数年前に、乾皮症の生徒が在籍したときに貼っているが卒業してからは対応していない。現在は貼っているところとないところがある状態。児童生徒の障がいに応じて

対策を講じていきたい。

- 全校集会の様子を見学させてもらったが、教職員の数が多いと感じた。教職員の中で役割分担などはあるのか。

（校長より）構成としては、大半が教員で、看護師、実習教員となっている。マンツーマンとまではいかないが欠席児童生徒も含めると、それに近い形になる。それぞれの立場で必要な任務を行っている。

- 医療的ケアのミスについて、深刻な事故は発生しなかったとあるが、ミスが軽微ということか。

（校長より）ヒヤリハット、インシデントや事故報告書の内容については、ミスが発生する度に情報共有を行っている。例えば、一定の時間に水分を注入するというマニュアルの中で、その真ん中1回を飛ばしてしまったというような場合もミスであり、保護者に連絡をしている。人体的に大きな被害が出ない場合を軽微なミスとしている。

- 保護者が学校に電話をしてくるということは、気持ち的にMAXな状態になってからである。その時に、担任が「ああ、そうですね。」「そんなの知りません。」と他人事のような対応をされ悲しくなったと、耳にしたことがある。親の気持ちに寄り添ってもらいたい。

（校長より）教員の年齢構成として、ベテラン層が極端に少なく、若手の先生が多い。社会的な経験に乏しく、いろいろな人にかかわっていくスキルを身に着けるべきだと考えている。

- 実態把握のチェックリスト等、西淀川支援でどんな研究を実施されているのかを教えてもらう機会があればいいと思う。
- タブレット端末については、ただ使えばいいという問題ではなく、実際に使用する児童生徒が、タブレット端末が使えるのか？認知レベルではどうなのか？など、来年度にリンクしていくと思うので教えてほしい。

（校長より）自立活動研究会は、自立活動に特化した研究会になる。発達に基づくアセスメントを4年間研究し、教科の学習活動を明確にしたものになるので、あさしお園には研究紀要でご提供できると思う。

3. 「令和5年度 学校経営計画および学校評価」について（校長より）

①児童・生徒一人ひとりのいのちを守る。【安心して通える快適な学校】

- （1）重度・重複障がい児童生徒、医療的ケアの必要な児童生徒、食物アレルギー対応児童生徒等のいのちを守る教職員の対応力の向上と行内体制の充実を図る。

• 本校のアレルギー対応が必要な児童生徒の人数は少なめであるが、来年度、アレルギー対応が必要な児童が入学してくることもあり、教員のアレルギー対応に対する意識を高める必要がある。

• 救急対応訓練に関しても、体制的に取り組んでいきたい。

- （3）この項目に関しては、教育庁より不要との指導があったので削除する。

②児童・生徒・教職員の人権を守る。【誰もが認め合い、お互いを大切にする学校】

- （1）それぞれの子どもたちを大切にしていく。

(3) 働き方改革を通して教員の人権を守る。来年度から、週に一度は一斉退庁日として 17:00 に退庁するという指導がきている。仕事にやりがいをもって取り組んでもらいたい。今年度の本校教員のストレスチェックの結果はよくなっていたので、維持できればと思っている。

③児童・生徒一人ひとりの学びを保障する。【専門性の高い教員がたくさんいる学校】

(1) 新学習指導要領を踏まえた教育課程の充実。

・教員の専門性を高めるために、きっちりと計画をしていく。

④児童・生徒一人ひとりのキャリア発達を保障する。【地域とのかかわりを深め、社会参加を実現できる学校】

・「学校間交流」「特別支援教育のセンター的機能」「キャリア教育」を重点課題として取り組む。

【委員より】

・校長先生から見て、教員の空き時間は確保されていると思うか。

(校長より) 児童生徒への介助と、授業指導の境目は設定しにくい状況。小学部教員は、全科目の指導を担当するが、中高等学部は教科担当制である分、まだ空き時間は設定しやすい面がある。児童・生徒がいろいろな先生に関わることが大切。また、業務削減の観点から、学校での電話対応時間の短縮を導入している学校が増えている。大阪府からは、4月から毎週どこかで1日、一斉退庁日を設定して、17:00に教職員が退勤するよう指示が来ている。クラスで連携して、どのメンバーで何を処理していくか、業務の見える化を進めていく必要がある。先生たちに余裕ができることで、子どもたちに対しても余裕のある対応ができる。この利点を保護者へどう示していくか、考え方を変えていく必要がある。先生たちが元気であることが大切。

・「目標」を高く掲げるだけではなく、「これ以上は下げない」というポイントを、いかに教員間で共有できるかということ(エッセンシャルの共有)も大切だと思う。専門性を高めるということに加えて、どう働いていくかということを考えられるような機会を。

・4(2)にある「LS」とは何ですか。

(校長より) リーディングスタッフの略称。校長が教員に指名し、府内8ブロックに分かれて活動している。本校は大阪市北西ブロックにて、特別支援教育のノウハウを大阪市立の小中学校と共有している。

・あさしお園は知的障がいを伴う児童も在籍しており、自傷のあるお子さんもいる。肢体不自由児の児童のみに留まらず、知的障がいの児童への対応にもこれからつながっていくことを期待している。

(校長より) 本校でも、難波支援のLSと連携して対応することがあるので、可能。本校も知的校から知的障がいの指導のノウハウを学ぶことができるし、逆に、知的校に肢体不自由の指導のノウハウが役立つこともある。つながりが大切。あさしお園のお子さんにも還元できれば。私自身が、大阪府下でLSを始めた時からかかわっているので、これまでの経験を活かせると思っている。

- 高等部生徒は、就学奨励費によるICT機器の購入を毎年行っているが、ICTに詳しい先生とそうじゃない先生によって相談内容に差が出て、親は悩んでしまう。購入期限だけが迫ってきて何も考える暇もなく買ってしまうのでは、せっかくの5万円がもったいない。昔、ICT機器の購入に関する説明会を行っていたと思う。アフターコロナということもあるので、もう少し詳しく早めに保護者に周知してもらったり、直接話をする機会を作ったりしてほしい。
(校長より) 教員がICT機器を便利に使えるということは、働き方改革にもつながると思う。教員も9割はタブレット端末を活用している実績があるので、ベースはあると思う。必要な情報を保護者としっかり共有していきたい。
- 先ほど、1(3)を省くとの発言がありましたが、学校運営に関わる内容で校長が作成した経営計画なのに、教育長が「削除しなさい。」と言えるのですか。
(校長より) そこは、校長も納得している、外しておいたほうが良いと思っている。新型コロナの感染予防を一気に緩めることに対し、不安な人もいるのは確か。考えながら対応していきたい。
- 子どもたちの意思決定支援に対してどう関わっていくかがとても大切だと思っている。児童生徒の年齢、発達をきちんと把握し大事にしていかなければならない。あさしお園でもしっかり引き継いでいかなければと思っている。
- 2月10日に西淀工場で火災があり、消防車も多数出動したので、ご迷惑をかけてしまった。また、工場の見学会を実施した際には、教員・児童生徒あてにパンフレットの配付を依頼した。今後も避難訓練等、来てくださればと思う。社会見学に関しても、来年度の予約を受け付けている。ユーチューブで西淀工場の様子も公開しているので、ご活用ください。